

四国こどもとおとなの医療センター

## 県内初、新生生前診断

9月開設

四国こどもとおとなの医療センター（善通寺市仙遊町、中川義信院長）は29日、妊婦の血液でダウン症などの胎児の染色体異常を調べる新生生前診断などを実施する遺伝医療センターを9

月に開設し、診断を始めたと発表した。全国で29施設目の認定で、県内では初めて。四国では徳島大、愛媛大が同様の施設を設置している。

中川院長と前田和寿総合周産期母子医療センター部長が会見で概要を説明。既に数件の検査を行っており現在、検査結果待ちの段階と報告した。

検査対象は、出産時に35歳以上の妊婦で、双子や三つ子の妊婦は対象外。主に専門医療機関からの紹介を通して受け付け、検査の内容を説明した上で趣旨への同意が得られれば採血（20cc）する。血液は米国の検査会社へ送られ、結果は約2週間後に届けられる。費用は約20万円。

同センターは医療面だけでなく心理面でのサポート

を重視し、専門スタッフを配置しているほか、女性外来にカウンセリング用の2部屋を用意した。

前田部長は「新しい検査は採血だけなので流産の危険性はほぼゼロに近い。しっかりとカウンセリングした上で意思決定してもらうことが重要」と話した。